

Q&A

診断に苦慮した多発小腸潰瘍

【問 題】

症例：71歳，男性。

主訴：血便，発熱，体重減少。

現病歴：発熱・異常行動があり，急性硬膜外血腫で前医に入院し開頭手術が施行された。入院8日後に大量の血便を認め，上部・下部消化管内視鏡検査で出血源は同定されず，造影CTで小腸出血が疑われた。小腸内視鏡での精査加療目的に当院へ転院となった。

既往歴：40歳代，陳旧性肺結核。

家族歴：特記すべき事項なし。

内服薬：特記すべき事項なし。

身体所見：舌・口腔内アフタあり，胸部異常な

し，腹部平坦軟で疼痛ほかの特記なし，皮疹なし，ばち指なし，関節炎なし，陰部潰瘍なし，痔瘻なし。

血液検査所見：RBC $139 \times 10^4/\mu\text{L}$ ，Hb 6.0g/dL，Hct 19.4%，WBC $9100/\mu\text{L}$ （白血球分画：Seg 54%，Band 5%，Lym 9%，Mono 29.5%，Eos 0%，Baso 0%，Myelo 1.5%，Blast 0.5%），PLT $30.2 \times 10^4/\mu\text{L}$ ，ALB 2.7g/dL，BUN 9.8mg/dL，CRE 0.54mg/dL，CRP 8.66mg/dL，IL-2R 1469U/mL，HCV-Ab-，HBs-Ag-，TP-，RPR-，T-SPOT-，CMV-。

経肛門的小腸ダブルバルーン内視鏡の画像（Figure 1a~c）を以下に示す。

診断は何か？

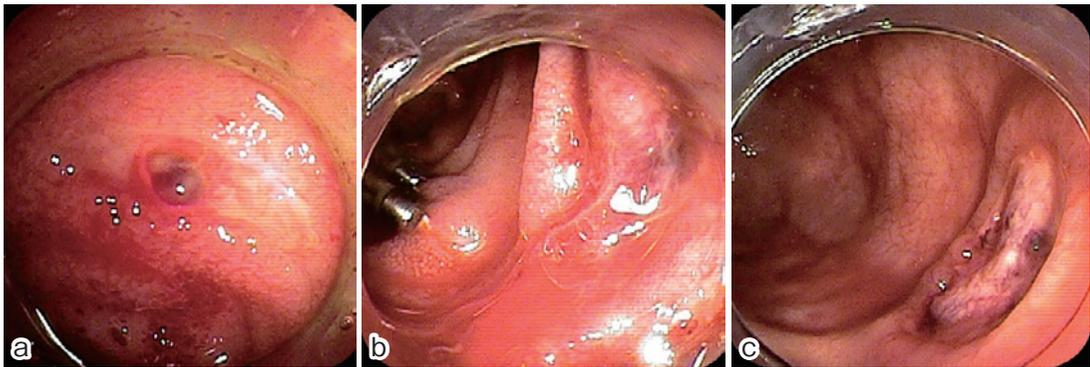


Figure 1. a. 遠位空腸. b. 遠位回腸. c. 回盲部.